

燕市の取り組み

燕市では、認知症になっても安心して暮らし続けられるように、さまざまな支援メニューがあります。その一部をご紹介します。

●なじらね燕 (チームオレンジ)



希望や思いを持つ認知症の人と、活動したい認知症サポーターが一緒になって活動し、地域の一員として共に地域づくりを進めていくチームです。チーム員は、認知症についての講座を受講します。



●認知症カフェ (オレンジリングカフェ)



燕市役所をはじめ各地で開催しています。気軽に参加者同士の交流やリフレッシュできる活動などを行っています。交流を通してちょっとした介護のヒントなどを得ることができます。



●認知症サポーター 養成講座



認知症について正しく学ぶことで、認知症の人や家族を温かく見守ることができるサポーターを養成します。養成講座は地域・企業などに講師を派遣し、開催することもできます。



●認知症の人の見守り・声かけ、 検索訓練体験会

認知症になっても自由に安心して出かけられるように、道に迷うなどの困ったことがあればそれに気づき、言葉をかけて、地域ぐるみで見守る取り組みです。



●おかえりつばめ〜



燕市にメールアドレスを登録した「おかえりサポーター」へ、行方が分からなくなった人の検索に関わる情報を配信し、早期発見につながる取り組みです。



●認知症 初期集中支援チーム



受診や相談支援などがうまく進まない人を対象に、認知症サポート医や保健師などの専門職が自宅を訪問。今後の暮らしの相談や受診などに向けて支援します。



県内初！ 福祉従事者などを市民後見人として養成します

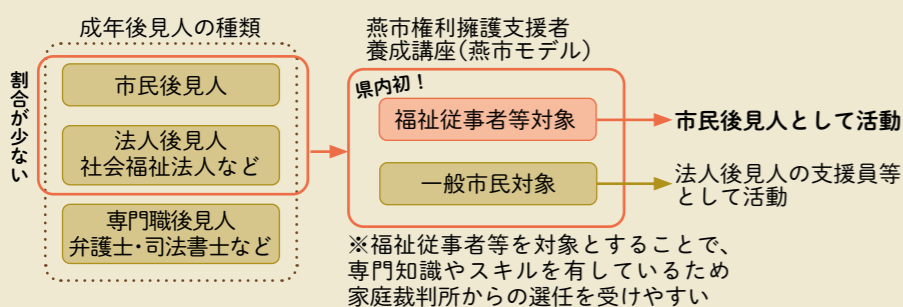
近年、認知症や精神障がいなどを理由として権利擁護支援ニーズが高まっています。その一方で、成年後見人の担い手不足が課題となっています。

燕市では、増加する権利擁護支援ニーズに応えるため、福祉業務従事者などを市民後見人に養成する県内初となる取り組みを始めました。

「市民後見人」ってなに？

弁護士や司法書士などの資格を持たない親族以外の市民による成年後見人などで、市町村の支援を受けて後見業務を適正に担います。主な業務は、金銭管理、介護・福祉サービス利用援助支援などです。家庭裁判所から選任され、後見内容に基づき報酬額が決定されます。

燕市権利擁護支援者講座(燕市モデル)の概要



燕市権利擁護支援者講座

- 講座日程
11月21日(火)~令和6年1月26日(金)のうち6日間
- 募集期間
11月7日(火)まで
- 申込
詳細は市ホームページをご覧ください。



よくある症状とその対応

不可解な行動・困った行動も本人なりの理由があります。事実を押し付けるのは逆効果。これらの症状はずっと続くわけではありません。

「ごはんまだ？」 (記憶の障害)

⇒ 話題を変えて納得してもらおう

「食べた」事実を理解してもらうのではなく、本人がいかに納得するかがポイントです。「もうすぐできますよ」「できるまでこれ(お菓子)食べていてね」と話題を変えてみましょう。

「財布を盗まれた！」(妄想)

⇒ 同じ感情を共有して味方になる

盗まれたと思い込んでいます。反論せずに「それは困りましたね。一緒に探しましょう」と共感します。本人以外の人が見つけた場合、「このあたりを探してみましょ」と言って、本人に見つけてもらうことが大事です。

「バカにしているのか！」 (人柄が攻撃的に変化)

⇒ できる限り感情をいたわる

気持ちを表現できる言葉が出てこないなど、もどかしい気持ちを抱えています。本人を尊重する言葉をかけるとともに、投げられて困るものは目の届くところに置かないようにしましょう。

出典:『つばめ認知症安心ガイド3』

●認知症の予備軍で踏みとどまるか、引き返すか、それとも・・・

認知症は突然発症するものではありません。その一歩手前に「認知症とは診断できないけれど、正常とも言えない」段階があります。そのどちらとも言えないグレーゾーンのことを「軽度認知障害(MCI)」と言います。

この段階で脳の活性化を図ったり、運動したりすることによって、認知症の進行予防が期待できます。

早めの気づき&早期受診のコツ

チェックリストで確認してみよう！

- 物を置いた場所が分からなくなることがある
- 今日の日付や曜日が分からない
- 買い物の時、かんたんな計算ができなくなった
- 本やテレビドラマの内容が理解できなくなった
- 料理や家事がテキパキできなくなった
- 切ったばかりの電話の相手を忘れる
- 今まで楽しかったことへの意欲がなくなる

早期受診のコツ

- ①まずはかかりつけ医に相談しましょう
かかりつけ医は本人や家族を日頃から知っている強みがあります。
- ②気になることをまとめておきましょう
本人や家族からの情報が、診断の重要な手がかりになります。医師に伝えたい内容を整理しておくでスムーズです。
- ③受診へのためらいを上手に取り除きましょう
本人が感じている不安や心配などを理解し、家族も心配していることを伝えましょう。

項目の半分くらいが当てはまるようでしたら、**かかりつけ医**に相談してみましょう！

●早期受診のメリット

- 早期診断により、
- ①認知症の進行を抑制
 - ②今後の暮らしについて自分で考え、家族と話し合える
 - ③本人への接し方や介護サービスの情報が早く得られるなどのメリットがあります。早期診断・早期介入はとても重要です。

●整理しておくポイント

- 性格や習慣にどんな変化がいつ現れたか？
- 具体的に困っている症状は？
- 日や時間帯によって変化があるか？
- 既往歴(高血圧や糖尿病)は？
- どんな薬を飲んでるか？



認知症地域支援推進員
力石 雅博さん

住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくには、医療や介護サービス以外にも、認知症の人への理解や協力が必要です。地域の人とのさりげない見守りや温かい言葉がけは、優しい支えとなります。



また、認知症の人が地域の一人として役割を持って暮らしていくことで、支えられるだけの存在でなく、周りの人とともに地域を支える存在であり、活躍していくこともできます。



▲認知症地域支援推進員について